

1. 名古屋特別例会での学びの還流

2. 実践報告や授業構想

学年	教材	検討内容
6年 I学級	「海の命」	<p>2場面(7~12段落)や3場面(13~15段落)について、それぞれ子どもたちから出た問題と、それに対する教師の解釈について検討した。子どもたちといくつか問題を出し合ったが、その問題に明らかな根拠がなかったり、作業的・確認的な授業になったりしてしまった(授業者の反省)。</p> <p>14段落の「太一は全てをさとった」という文に着目し、「「全て」の内容は何か」や「さとる」の意味、さとった原因・結果などについて考えた。</p> <p>また、26段落と27段落で、瀬の主に対する太一の思いや行動に変化があることに着目し、その変化について検討した。</p>
5年 H学級	「わらぐつの神様」	<p>子どもから出た問題の中の、「なぜお店の人に声をかけられただけで真っ赤になるんだろう」を追究課題として授業を行った。“何がきっかけでおみつさんは真っ赤になったのか”、“真っ赤につながる言葉は何か”について検討した。</p> <p>また、29段落の「赤くなりながら、おすおすとわらぐつを差し出しました」の文に着目し、「ながら」の意味や「おすおすと」「差し出した」時のおみつさんの気持ちなどについて考えた。</p>
1年 I学級	「だってだっのおばあさん」	<p>1~6段落について、子どもが「変だ、おかしい」と思うところを予想して、授業構想をした。ねこの意図的な行動があるところに着目したが、1年生ではその読み取りが難しいかもしれない…。</p> <p>「だってわたしは98だもの」から「だってわたしは5さいだもの」と、年齢が変わる時のおばあさんの気持ちや“おばあさんが5歳になったところ(瞬間)はどこなのか”、などについて検討した。</p>

3. 次回サークルについて

3月8日(日) 予定